

English for Specific Purposesの有効性 —ニーズにあった英語の習得—

園部 陽子

(平成21年9月30日受理)

The Effectiveness of English for Specific Purposes

SONOBE, Yoko

(Received on September 30, 2009)

キーワード：観光業，多文化理解，職業目的の英語

Key words : Tourism industry, Multicultural Understanding, English for specific purposes

序論

近年，どこの街を歩いていても外国人を目にすることがかなりの割合で多くなったと感じる。首都圏や百万都市を中心に，都心から少し離れた場所でも様々な国籍の外国人が観光やビジネスで訪日している。2008年日本政府観光局（以下 JNTO）によると以下のような結果が数値として出ている。

訪日外客数 合計8,351,600万人
国別来訪者 1位 韓国2,382,600人 28.5%
2位 台湾1,390,300人 16.6%
3位 中国1,000,700人 12.0%

次いで，米国9.2%，香港6.6%，豪州2.9%，英国2.5%，タイ2.3%，カナダ2.0%，シンガポール2.0%，フランス1.8%，ドイツ1.5%，その他12.1%

この結果から拝察されることは，英語圏からの訪日人数よりもはるかにアジア圏からの訪日人数の方が多い。観光地のパンフレットや地図，公共機関などのサービスの表記も英語だけでなく韓国語，中国語なども多く見られるようになってきたが，いまだ彼らが日本で観光をするにあたり言語の問題に直面するであろうことも推測される。

このような現状下，観光地の一つとして知られる東京都台東区では「外国人旅行者接遇研修会及び英語会話講習会」を開催した。そこで，私は英語会話講習会の講師として英語を教える機会を与えられた。講習会の前には台東区の観光名所である浅草寺とその周辺，河童橋，アメヤ横丁を訪問し，台東区で観光業を営んでいる方にはどんな英語が必要であるのかりサーチをした。この講習会をきっかけに単純に英会話を教えるだけでなく，現在英語はどのような位置づけをされているかを説明すると共に，多文化理解

について改めて見直す必要があった。本論文では，日本人が日本人らしい英語で外国人に接するにはどのような方法が適しているか，また日本における多文化理解と観光地としてさらに盛り上げようとしている東京都台東区の観光業の人々が必要としている英語はどのような英語であるのか実践をもとに論じる。

1. 英語の必要性を理解してもらうために

講習会では約30名の方が集まった。職業は主に百貨店，宿泊業関係，土産品関係，飲食関係，その他（専門店，メーカー，卸業）である。土産品関係の詳細は様々であるが，洋服屋，乾物屋，傘屋，印章業などで，意外にもよく目にするお菓子屋は少なかったように思える。講習会以前に台東区をリサーチしていた時は，お店には主人が1人で外国人観光客が入ってきても見てみぬふりをしているような様子が伺えたが，講習会に参加してきた方は，英語に対してのモチベーションが高い方が多く，普段から英語に触れている方も多くみられた。従って，多文化・多言語に関する理解はしてもらいやすいと考え英会話の内容に入る前に多文化理解に関する説明をした。それからお土産屋を想定としたシチュエーションのタスクシートを用意した。英会話で使用したタスクシートはいかに単純明快で，だれでも知っている単語やフレーズを使いこなすことを目的とした。

1-1. 英語の国際的な普及

あらゆる参考文献で紹介されているが，English as a Native Language (ENL) と English as a Second Language (ESL) と English as an International Language (EIL) の割合を考察する。

今では、世界で3人に1人が英語を使用するというくらい広範囲にわたり国際共通語になっている。世界の人口が約60億人のうち、英語を母語とする人口は約3億人、公用語とする人口は約10億人、外国語もしくは国際語とする人口は約7億人といわれている。この結果から見ると、英語はENL同士で使用されるよりもESLやEILとして使用されている割合のほうが多い。特にアジアでの使用率はかなり多く占めている。つまり、英語は多国間のコミュニケーションのツールになったといえる。かつての日本では、単一民族や単一言語化が近代国家の基盤であり政策であったが、もはや上記に掲げる言語のグローバル化に伴い、日本の言語政策・外国語政策は大きく変化した。

日本の教科書では外国語として英語を学習すると共に、異文化理解教育にも力を入れている。中学校や高等学校で使用されている教科書を拝見すると理解しやすいが、世界中の挨拶の仕方やジェスチャーの様子が描かれている。それだけ、言語と異文化理解に力を注いでいることが現状である。

1-2. 学校で学ぶ異文化理解と実際の多文化理解

— Intercultural Understanding and Multicultural Understanding —

異文化理解は小学校の「総合学習の時間」でも取り上げられている通り、我々に親しみのある言葉になった。多文化理解に関しては異文化理解と似ている点もあるが、最近になって益々に浸透してきたように思われる。大辞林によると「異文化」と「多文化」には以下のとおり提言されている。

「異文化とは、価値観や言語、習慣や行動様式など、自分が親しんでいる文化とは規範・営みの異なる文化。多文化とは、一つの国家ないし社会の中に、複数の異なる人種・民族・集団の持つ文化の共存を認める」とある。ここで、注目したいことは多文化に出てくる「共存」という言葉であるがその前にInterとMultiという英語にも注目したい。InterもMultiも共に接頭語として使用される。もともとInterという接頭語の意味は「中」「間」「相互」といった意味があり英語の同意語だと「between」「among」に匹敵する。必ずしも言い切れないが、Interは2から3の間を結ぶというようなイメージがある。一方、Multiは「多くの」「様々の」「複数の」「何倍のも」という意味であり、英語の同意語では「many」「much」「multiple」に相当する。つまりMultiには多数の複合体というイメージがある。ここで私が主張したいことは、日本は、二ヶ国間の異なる文化を比較するのではなく、何ヶ国もの異なる文化を理解する必要があるのではないかと考え、講習会では多文化理解(Multicultural Understanding)を強調した。次に多文

化理解していただいた上で、「共存」という言葉に焦点を当てた。多文化理解には「共存」という言葉が欠かせなくなる。さらに「共存」の理解を深めてもらうために、次のような例を一つ挙げて説明した。

「小学校から英語教育が推進され2011年からは必修化される。外国語(英語)という教科は異文化理解にも大きく影響する。学校教育では、異文化理解に関する授業を英語活動の中進めており、児童及び生徒には徐々に浸透して行くであろう。しかし、英語を小学校から学ばせる意味を考えたとき、何のために英語を勉強させるのか考える必要がある。受験に成功し、一流の大学に入学させるためなのか、もしくは一流の企業に就職させるためなのか、それとも海外赴任を目指すために小学校の段階から準備が必要なのか。私が考える英語活動の意味はもっと広く大きいものであってほしい。近い将来、日本人の人口と外国人労働者の人口が逆転したときに、近くに住んでいる人が様々な国籍になることも推測される上、一緒に働く同僚が外国人である可能性がある。そのような場面に遭遇したときに、必要最低限のコミュニケーションを図らなければならない。そのためには英語を媒体とし共に生きる=共存することが必要であるから、異文化理解から自然に多文化理解にシフトするのではないだろうか。」という話をした。多文化理解や共存という言葉自体は小・中学生に対して難しいと推測されるが、少しでも多くの大人に理解してもらい、子どもたちにも広めていってもらいたいために以上のような例を挙げ説明をした。

1-3. マーケティングリサーチの結果から見る英語の必要性

1-2で述べたように、多文化と共存に関するの意味が理解してもらった次には言語の問題が出てくる。

現在の日本において外国人との共存の窓口といえる場所はやはり観光業である。特に台東区は昔ながらの風情があり、ゆっくり旅をすることを好む外国人には、忙しい雰囲気のある東京都の中でも観光スポットとしては人気が高いようだ。外国人が台東区を観光する理由として2008年台東区マーケティング調査の報告書では次のようなデータがある。以下の表は外国人旅行者の活動実施率を示した表である。

表1

理由	活動実施率
職場外の業務・商用・出張	19%
食事・喫茶	74%
買物	45%
親戚・友人訪問	14%
芸術鑑賞	61%
動物園見学	13%
寺社への参拝	25%
花やしきへの来園	25%
大衆演劇・落語鑑賞	25%
散歩・散策	83%

散歩・散策の実施率が一番多く、次に食事・喫茶、芸術鑑賞、買物という順番になっている。この結果は台東区の観光地域をリサーチしていたときに見た現状と一致する。散歩しながら買物を楽しみ、名所を巡るという順番に相当する。この外国人旅行者の行動を考察すると、地域の方とのコミュニケーションが欠かせなくなり、この時点で英語の利用を考える必要性が発生する。街を歩いているとよく目にしたものはポップを使用した掲示物である。値段の提示や、場所によっては英語で書いた諸注意を掲げている。しかし、直接「face to face」の英語のやり取りを目にする場面は非常に少なかった。従って本来のコミュニケーションではない閑散とした風景であり、様々な業種のニーズにあった英語を伝える必要があると再認識した。

2. それぞれのニーズにあった英語

—English for specific purposes—

多文化理解、英語の必要性を十分に理解はできたところで、実際に英語会話の実践に入る。実践に入る前に一つ注意すべき点がある。それは受講者の中には、なかなか英語を使用することができない日本人らしい理由が一つある。それは完璧な文法や表現の仕方を使いこなさなければならないという完璧主義の概念である。この章では、社会人を対象とした英語講座において、社会人はどのような英語学習を望み、期待するかということを念頭に置くと共に日本人らしい魅力的な英語表現を取り入れ例を取り入れ、より簡単に誰でも知っている単語を最大に利用し、どんな英語学習が効果的であるのか考察する。

2-1. English for specific purposesの有効性

今回の講座では、対象が社会人、観光業を営むもしくは

携わっている人であったので、English for specific purposesという方法を用いた。English for specific purposes (以下ESP) とは、「ある特定の目的を持って学習される使用される英語のことで、一般的目的の英語 (English for general purposes) と対照をなす概念」(英語教育用語辞典2003) を意とする。また、English for occupational purposes (以下EOP) 職業目的の英語もESP同様に有効であるのではないかと考えた。この指導法は様々な国や大学ですでに使用されている。特にインドではESPが盛んで小学生の段階から算数・理科・情報は英語で授業をしている。日本の大学でも一般教養の英語で学科に適した英語を教授している傾向がある。

今回のような社会人向けに業種も特定された講座ではESPもしくはEOPが有効活用できるのではないかと考え、実際のシチュエーションに合わせたタスクシートを作成し講座内で使用した。

2-2. 完璧主義の概念をなくすために

まず、日本人がなかなか英語を話せない理由の一つとして完璧な英語でなければならないという概念を外してもらう必要があった。「No English」という世界から脱出し、外国人観光客とコミュニケーションを図るためにはこの第一ステップを解決しなければならない必要不可欠なことである。そこで私は、実践的な英語の練習をする前に3つの仮説を説明した。

- 仮説1. 「～でなくてならない」という正しい英語である必要がない。
- 仮説2. 日本人が日本人であること表現する英語を使用する。
- 仮説3. すでに習得している英語で十分である。

仮説1はむしろ英語を専門の職業としていない人を前提に仮説をたてた。「～でなくてならない」という正しい英語である必要がないという意味は、必ずしも文法や発音が正確でなくても問題ないということである。日本人は外国人との交流を苦手とする傾向がある。外国人が来ると見てみぬふりをするのが現状であるがゆえ、ポップに頼り売り上げにもつながらず終わってしまう。この状況を変えるためにも、日本人が外国人と交流を重要と考え簡単な挨拶と笑顔で迎えることが必要なのではないだろうか。仮説2の「日本人が日本人であること表現する英語を使用する」はユニークな例題を3つ挙げて説明した。

1. There is nothing to eat but please help yourself.
2. I can do it before breakfast.
3. I have a son who is still biting my leg.

1の“There is nothing to eat but please help yourself.”は突然の来客に対応するときに日本人がよく使う表現で日本語訳にすると「何もありませんが、どうぞお召し上がりください」である。簡単に英語で表現するならば“Please have some.”程度のことである。これは、文法的には間違えはないが、外国人の視点からすると「何も食べるものがない」といっているにもかかわらず、どうぞお召し上がりくださいというのだろう」と首を傾げるかもしれない。しかし、この表現は日本人特有の謙った丁寧な表現であり日本人的魅力が表れている。

2と3は『アジアをつなぐ英語』の著者(本名信行)が実体験を通して使用したところ通じたという事例からの例である。2の“I can do it before breakfast.”は想像がつくと思うが「そんな朝飯前さ。」を意味しており、英語では“piece of cake”というイディオムがある。しかし、“I can do it before breakfast.”は今では北米でも使用されていると著者は述べている。3の“I have a son who is still biting my leg.”の日本語訳は「親の脛をかじる」に相当し、著者がアメリカ人に使用したところ“My son still chews my leg”「私の息子もまだ私の脛をなめているよ」と返答があったとのことである。

以上の3つの例からもわかるように、日本人は発音、語句、文法、表現などの習慣がネイティブと違うと通じないと思われがちだが、多少の違いであればそれほど深刻に考えるほどではないことを主張し、自分の英語に自身を持ってもらうことができたのではないかと推測する。

2-3. タスクシートを使用した実践

2-2で説明した通り、英語に対して親近感を持ってもらった上で、作成したタスクシートを実践した。英語のレベルに関しては事前調査がなくわかりかねる点が多かったので初級レベルに設定した。シチュエーションは土産屋での店主と外国人観光客である。センテンスごとに日本語訳をつけ、下線には思いつく英語を入れてもらう形式にした。タスクシートは以下の通りだ。

You: ① _____
 いらっしゃいませ。
 A : Hello, I am good thank you.
 こんにちは。
 You: ② _____
 何かお手伝いしましょうか。
 A : Yes, please. I am looking for souvenir for my family. Do you have any popular souvenirs?
 はい、家族にお土産を探しています。何か人気のお土産はありますか。

You: ③ . . . _____
 もう一回いっていただけますか。 / もう少しゆっくり話してもらえますか。
 A : Do you have any good gifts for my family?
 私の家族に何かいいプレゼントはありますか。
 You: Yes. ④ _____
 はい、あります。これはいかがですか。
 A : This is nice but
 これいいですね。ん〜でも…。
 You: ⑤ _____
 ゆっくり見てください。
 A : Thank you. I like that one.
 ありがとう、私はあれのほうが好きだわ。
 You: ⑥ _____
 気に入ってくれましたか。
 A : Yes, very much. ⑦ I will _____
 はい、とても。これをいただきます。
 You: ⑧ _____
 ありがとうございます。1570円です。
 A : OK, two thousands yen.
 はい、2000円。
 You: Here is the change. ⑨ _____
 はい、おつりです。 430円です。
 A : Thanks.
 ありがとう。
 You: ⑩ _____
 はい、どうぞ。 / どうぞ、お持ちください。
 A : Thank you very much.
 どうもありがとうございました。
 You: ⑪ _____
 どういたしまして。良い1日を!

10回程度のやり取りの会話文である。以下の通り回答は補足説明と一緒に進めポイントをおさえていく。

①いらっしゃいませのかわりに

a. Hello / Good morning

b. Hello, how are you?

c. Can I help you?

May I help you? → Any help?

通常、いらっしゃいませといえば welcome という表現があるが、ここでは接客を意識して、以上の3つを取り上げた。また大半の受講者はcの Can I help you? を記述していたようだが、代用としてより短く簡単な Any help という表現を追加した。

②聞き返す コツ：語尾をあげる

a. Sorry?

b. Say again?

- c. Pardon?
Pardon me?
I beg your pardon please?

- d. More slowly please.
Can you speak more slowly please?

回答としてはcのPardon?が多かった。しかし一番簡単で誰もが知っているaのSorryでも失礼にはならないことを説明した。また、語尾を少し上げることで、印象がやわらかくなりコミュニケーションが途切れずに進行していく。

③お詫び コツ：語尾を下げる

- a. I am sorry.
b. Excuse me.
c. Pardon me.
d. I am (We are) terribly sorry.

いずれの表現も語尾を下げることにより、深刻さを表すことができる。回答としてはaが圧倒的に多く、これは普段から聞きなれている上とっさに対応をする際に発話しやすいことが証明された。

④ありがとう

- a. Thank you.
b. Thanks.
c. Thanks a lot.
d. Thank you very much.

*応用編 Thank you very much and I (we) appreciate it.

bとcは非常にカジュアルな表現方法かもしれないが、短くて使い勝手が良いので参考までに組み込んだ。応用編を入れた理由としては、様々な業種があると事前に聞いていたので、もっとも丁寧な表現ですぐに使えるような表現として紹介した。

⑤どういたしまして

- a. You are welcome.
b. No problem.
c. Sure.
d. That's OK.
e. Not at all.
f. My pleasure.

*応用編 Thank you! (語尾を上げる)

a～fまで少ない単語で「どういたしまして」と表現できる。しかし、すでに知っていたけれども使用するタイミングがわからず、aのみを使用してきた人も多いと思い、多くの例をあげた。応用編の「Thank you! (語尾を上げる)」を追加した理由として、外国人はお店側が「ありがとう」という前に「ありがとう」というケースが多い。その際に「こちらこそありがとう」という意味合いで語尾を上げることによって表現することができる一つのパターンとして説明した。

⑥あいづちを打つ・共感する

- a. Good.
b. Nice.
c. Great.
d. Wonderful.
e. I like it too.
f. Sounds nice / great.

a～dのような形容詞は一部であり、あいづちや共感をする形容詞はほかにもたくさんあるが、日常的に使用頻度の高いものを活用してもらうことを目的とし、代表として4つあげた。eとfは形容詞ではないが、ほめ言葉や共感する際に使用するフレーズである。ここでは共感することを強く主張する必要があった。なぜなら、受講者は売り手である。自然なコミュニケーションをしている中で、売り上げにつなげていく必要があるからである。

⑦さようなら

- a. Bye. / Good Bye.
b. See you. / See you later. / See you again.
c. Have a nice day.
d. Have a nice trip.
e. Have fun!
f. Enjoy.
g. Take care

さようならのバリエーションはたくさんあるが、相手が旅行者の場合はHave a nice day, Have a nice trip, Have fun, Enjoy, Take careが好ましいであろう。

⑧そのほかの表現方法 part1

- a. Can you ～? できかたたら
～できますよ。 Yes, I can. → Can!
～できません。 No, I can't. → Can't.
b. Do you have ～? できかたたら
～ありますよ。 Yes, I have → Have!
～ありません。 No, I don't → Don't Have.

上記の方法はシンガポールイングリッシュを活用した方法である。日常の日本語の会話に非常によく似ている点がある。例えば「～できる」と聞かれたら「できるよ」と簡単に返事をするように、英語でも「できるよ」と一言で答えてもおかしくはない。Haveの「～ありますか」も同様である。もちろん、正確にYes, I canやYes, I haveと答えることができれば最適であるが、初心者であり、日本人的な答え方でいいとする場面ではさほど大きな問題ではない。

⑨そのほかの表現 part2

- a. 何かお勧めしたいとき
How about it (this one)?
Do you like it?
b. 考え中の方との会話中の間に
Please take your time.
c. 何か書いてもらいたいとき

Please write down.

d. 何か渡したいとき

Here you are.

これらの表現の中でもっとも注目したいのは、bとcである。bは話が行き詰ってしまったり、相手が考え込んでしまったときに相手を配慮することにも使用できると共に、英語が苦手な人にとっては丁寧な逃げ言葉にもなる。また、cは言葉で説明するには限界を感じたときに筆談を利用することができるし、何よりも値段や会計時に書いて示すことで間違いを防ぐことができるので有効に利用できる。

⑩困ったときの動詞の活用 have・like・take

この3つの動詞は様々な場面において活躍する。私が作成したタスクシートにおいても、なるべくhave・like・takeを利用した文章を考えた。have・like・takeの利点は「シンプルで誰でもすぐ使える動詞、多くの意味を含み、あらゆる場面で活用、覚えやすく忘れにくい、相手(外国人)も多く利用する」の4点である。また、likeをうまく習得するとタスクシートの表現以外にも、以下のように接客に適した言い回しができる。

a. Do you like ~?

～を気に入ってもらえましたか。

b. What do you like?

どんなものがお好みですか。

What would you like?

お決まりですか

c. What would you like to have?

何をお召し上がりになりますか。

What would you like to drink?

何をお飲みになりますか。

bとcは特に飲食関係の業種に使用するといいだろう。ここではlikeを代表として例に挙げたが、have・like・takeには様々な意味があり幅が広く使用することができる動詞である。従って、この3つを活用した英語を習得しただけで、会話の幅も広がる。

⑪数字の言い方

タスクシートの会話の中で、「1570円です。」「はい、2000円。」「430円のおつりです」のようなやり取りを取り入れた。英語で数字を言うことは日本人にとって困難であり、特にお店や宿泊関係では間違えてはならない。この回答を丁寧に言うと、

You : One thousand and seventy hundreds yen, please.

A : Two thousands yen.

You : Here is the change. Four hundreds and thirty yen.

このようなthousandとhundredを繰り返し使うことは混乱を招き、千単位ならまだいいが万単位になるとややこしくなる。そこで、より明確で簡単に解決する為に次のように説明をした。1,570円は15と70に分けてfifteen seventyということができ、430円ならば4と30に分けてfour thirtyということが出来る。また、より正確に言うのであれば、1,570円はone, five, seven, zeroで指を使いジェスチャーも使用することにより間違いは防げる。もしくは、額が大きくなればなるほど、記述方式を利用するといいい。非常に単純のようだが外国人との会話では緊張感が伴うので、受講者は改めて認識することができたのではないかと拝察した。

数字に関してもう1つ付け加えるとすれば、宿泊施設の部屋番号や階数である。階数は序数を使用する上、アメリカ英語とイギリス英語では異なることを説明し、部屋番号に関しては会計と同じような方法が効果的である。例は以下の通りである。

・宿泊施設の階数・部屋番号

1階 = First floor (米語) Grand floor (英語)

2階 = Second floor (米語) First floor (英語)

305号室 = three o five 1210号室 = twelve ten

会計のやり取りも宿泊施設の階数や部屋番号もコツを押さえてしまえば、あとは応用と工夫次第である。

3. 結論

本論文は、観光業を軸として多文化理解と英語の必要性とタスクシートの実践に関して論じた。実際私はEnglish for specific purposesを最大に利用した授業をすることがはじめてであり、観光業に関する知識も乏しかったため受講者に対して物足りない部分があったかもしれない。

外国人の訪日の動向を見ると英語圏からの観光客は少ないというものの、先にも述べたとおり、英語はノンネイティブスピーカー同士で話す割合が高い。今後はさらに多文化理解をした上で、多国間・多文化間コミュニケーションのための国際言語と考える必要があるだろう。また、English for specific purposesもしくはEnglish for occupational purposesに関しては「仕事に役に立つ英語を習得しなければならない・学んだ英語は仕事に生かす工夫をしなければならない・習得した英語を応用しなければならない」という考え方がある。難しい考え方のようにだがタスクシートを見るとわかるように、中学校・高等学校で学んだ英語ばかりである。つまり、学校教育の中ですでに習得したことをそれぞれの職業に適した形で工夫することができればESPもしくはEOPの有効利用が誰でもできる。

英語を学習することは英語圏の人々の行動をモデルにすることだけを目的としているわけではないし、英語圏の文

化を模倣することがすべてではない。英語は世界の人を相手に、自分の思うこと、感じることを伝え、自分のアイデンティティを表現する道具である。今後の学校教育で必要とされることは、英語を道具としてうまく利用することができる生徒もしくは学生を増やしていくことではないだろうか。一方、我々教員側には問題点もある。ESPを実施するためには、様々な分野における英語を身につけなければならない。一般常識程度の知識では対応できなくなってくる可能性があることが今回の実践からわかった。今後の課題として、教える立場の人間が基礎英語を身につけさせると共に社会全体の動きや文化変容を歴史などあらゆる情報を敏感に捉え、ESPにたどり着くまでのプロセスを徐々に積み上げ構築していく必要があるのではないかと考察する。

謝辞

今回、東京都台東区の職員の皆様にはこのような機会を下さったと共に、たくさんのご協力をして頂き感謝の意を述べます。そして、本研究を行うにあたり、東京家政大学の矢田裕士先生にご助言とご指導を賜りました。心より感謝いたします。

参考文献

- 河原俊昭. (2004) 『多言語社会がやってきた』 くろしお出版
- 河原俊昭. (2006) 『世界の言語政策』 くろしお出版
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則. (2003) 『英語教育用語辞典』大修館書店
- 本名信行. (1999) 『アジアをつなぐ英語』アルク
- 本名信行. (2006) 『英語はアジアを結ぶ』玉川大学出版部
- 山本忠行・河原俊昭. (2007) 『世界の言語政策2』くろしお出版

参考URL

日本政府観光局 (Japan National Tourism Organization)
<http://www.jnto.go.jp/jpn/>

報告書

平成20年度台東区観光マーケティング調査報告書 (2009年3月) 台東区

Abstract

This paper introduces the present situation of tourism industry in Taito, Tokyo. According to tourism marketing research 2008, a large number of foreign people visit Tokyo every year. Most visitors come from Asian countries. Under this situation, I expect that the people who work in the tourism industry need to learn a foreign language, especially English. Therefore, this paper also describes the effectiveness of English for specific purposes, and I would like to point out the statements in terms of English for specific purposes.

This research would be helpful for university language teachers because they are likely to teach English for specific purposes or English for occupational purposes to various-major students in the near future.